いしかわ広域交流幹線軸道路整備事業（主）七尾輪島線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

輪島市

渡　合　遺　跡

２００７

石　川　県　教　育　委　員　会

(財)石川県埋蔵文化財センター

渡合（どあい）遺跡

２００７

石川県教育委員会
（財）石川県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は渡合遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は輪島市三井町渡合地内である。

3　調査原因はいしかわ広域交流幹線軸道路整備事業（主）七尾輪島線であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成17（2005）年度から平成18（2006）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。

5　調査にかかる費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。

6　現地調査は平成17（2005）年度に実施した。面積・機関・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間　平成17（2005）年10月13日～同年11月16日

面　積　350㎡

担当課　調査部調査第３課

担当者　布尾和史（主任主事）、荒木麻理子（主事）

7　出土品整理は平成18（2006）年度に実施し、企画部整理課が担当した。

8　報告書の刊行は平成18（2006）年度に実施し、調査部調査第３課が担当した。執筆・編集は荒木麻理子（企画部企画課主任主事）が行った。

9　調査には下記の機関、個人の協力を得た。

石川県土木部道路建設課、奥能登土木総合事務所、輪島市教育委員会（五十音順）

10　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書についての凡例は下記のとおりである。

⑴　方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。

⑵　水平基準は海抜高であり、Ｔ．Ｐ．（東京湾平均海面標高）による。

⑶　遺構実測図の縮尺は1/60である。

⑷　遺物実測図の縮尺は1/3である。

目　　次

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1

第１節　調査に至る経緯 …… 1

第２節　調査の経過 …… 1

第３節　出土品整理・報告書刊行 …… 1

第２章　遺跡の位置と環境 …… 2

第１節　遺跡の位置と地理的環境 …… 2

第２節　歴史的環境 …… 2

第３章　遺構と遺物 …… 5

第１節　調査の概要 …… 5

第２節　遺構と遺物 …… 5

第４章　まとめ …… 6

挿図目次

第１図　調査区位置 …… 1

第２図　遺跡の位置 …… 2

第３図　周辺の遺跡（S=1/50,000）…… 4

第４図　遺物実測図（S=1/3） …… 5

第５図　遺構平面図１（S=1/60） …… 7

第６図　遺構平面図２（S=1/60） …… 8

第７図　遺構平面図３（S=1/60）…… 9

第８図　遺構平面図４（S=1/60） …… 10

第９図　遺構断面図１（S=1/60） …… 11

第10図　遺構断面図２（S=1/60） …… 12

第11図　遺構断面図３（S=1/60） …… 13

表 目 次

第１表　周辺の遺跡 …… 4

図版目次

図版１

調査着手前（南から）、１～２区完掘状況（北東から）、１区SX01南肩土層、１区SK01土層、１区SK02土層、２～３区完掘状況（北東から）、２区SX02北肩土層、２区SX02南肩土層

図版２

３区SK03土層、３区SK04土層、３区西壁土層、４～６区完掘状況（北東から）、７区完掘状況（北東から）、７区西壁土層、８～10区西壁土層、11区完掘状況（南西から）

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

本調査は、石川県土木部によるいしかわ広域交流幹線軸道路整備事業（主）七尾輪島線を原因とする。施工区域内には周知の遺跡である渡合遺跡が存在しており、1991年に石川県立埋蔵文化財センターによる調査が行われている。平成17年１月の石川県教育委員会文化財課（以下文化財課）による試掘調査をうけた、石川県土木部道路建設課（以下道路建設課）と文化財課による協議の結果、工事の影響が及ぶ350m^{2}について、発掘調査を実施して記録保存を行うことになった。道路建設課は文化財課に発掘調査を依頼し、文化財課は（財）石川県埋蔵文化財センター（以下埋文センター）に発掘調査を委託した。調査は調査部調査第３課が担当した。

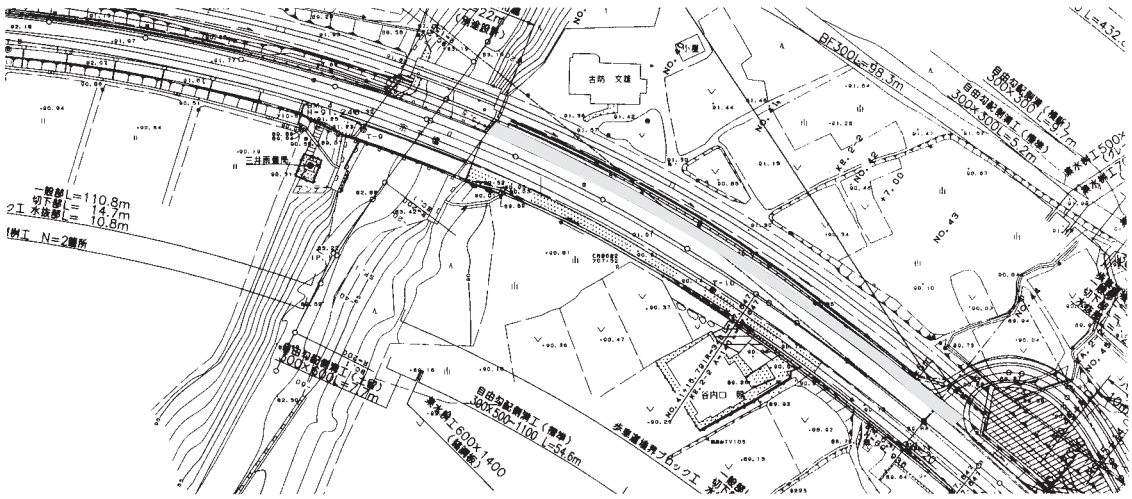
第２節　調査の経過

平成17年10月５日に現地において奥能登土木総合事務所・文化財課・埋文センターとの間で協議が行われ、調査区、調査方法、仮設建物設置場所等の確認を行った。13～14日に表土除去を行い、27日に基準杭の設置と仮設建物の建上げを行った。31日から作業員を導入し、遺構検出・掘削作業を開始した。翌11月１日からは実測作業も開始した。８日に遺構掘削作業が終了した。10日に実測作業を終え、10～11日に埋め戻しを行った。11日に機材搬出、16日に現地引渡しを行い、現地調査を終了した。

第３節　出土品整理・報告書刊行

平成18（2006）年度に石川県教育委員会文化財課は、（財）石川県埋蔵文化財センターに出土品整理を委託し、当センターがこれを実施した。整理内容は、遺物の実測・トレースと、遺構実測図のトレースであり、企画部整理課が担当した。

平成18（2006）年度に同文化財課は、調査の報告書の執筆ならびに刊行を当センターに委託し、当センターがこれを実施した。原稿執筆及び報告書の刊行は調査部調査第３課が行った。



第１図　調査区位置図（S=1/2,000）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

渡合遺跡は石川県輪島市三井町渡合地内に所在する。輪島市は、平成18（2006）年２月１日に隣接する鳳至郡門前町と合併して“新”輪島市となった。県の北端、日本海に突出する能登半島の北岸部に位置し、東は珠洲市・能登町、南は穴水町・志賀町、北と西は日本海に接する。また、北の沖合には七ツ島・舳倉島があり、沿岸漁業の拠点となっている。市域の大部分が山地で、旧輪島市域では能登最高峰の高洲山（567m）をはじめ、宝立山、鉢伏山、佐比野山などの標高約400m級の山々が連なって、奥能登丘陵を形成しており、低丘陵地形をなす奥能登にあっては比較的山深い地域である。河川は険しい山容をぬうようにして北流して日本海に注ぎ込み、それらが形成した小規模な沖積低地に集落が展開している。市域東部の南志見川、町野川流域、市街地を流れる鳳至川、河原田川流域で集落の集中が見られる程度で、丘陵地形にあっては小河川の谷あいに見られる樹枝状平地に集落が散在するあり方となっている。また、旧門前町域も、高爪山、高塚山、サビヤ山、番場山の山地が続き、これらの山地から日本海に注ぐ皆月川、深見川、八ケ川、阿岸川、南川、仁岸川が形成した東西に伸びる沖積平野に、集落の多くが展開している。

第２図　遺跡の位置

渡合遺跡のある三井地区は、穴水町と輪島市街域とのほぼ中間の距離に位置する。蛇行しながら北流する河原田川沿いとその支流の仁行川、中川に沿って三井町仁行、本江、中、渡合、興徳寺、長沢、漆原、小泉、細屋、新保、市ノ坂、洲衛、内屋などの集落が点在している。七尾北湾にのぞむ穴水町と輪島市街地を南北に結ぶ主要地方道七尾・輪島線に沿って河原田川は北流し、七見川、小又川は南流している。これらの河川は洲衛、市ノ坂付近を分水嶺として、能登半島特有の低丘陵性山地を開析しながら、樹枝状の散在的な狭小な平野を形成し、蛇行しながら日本海に注ぐ。周辺の山地は標高200m前後を測り、樹枝状平野および小谷に存する集落は、ほぼ海抜100m前後の高さにある。本遺跡は河原田川左岸の舌状台地上に立地し、現在は畑地として利用されている。

第２節　歴 史 的 環 境

渡合遺跡の周辺には、縄文時代から中世の遺跡が点在している。

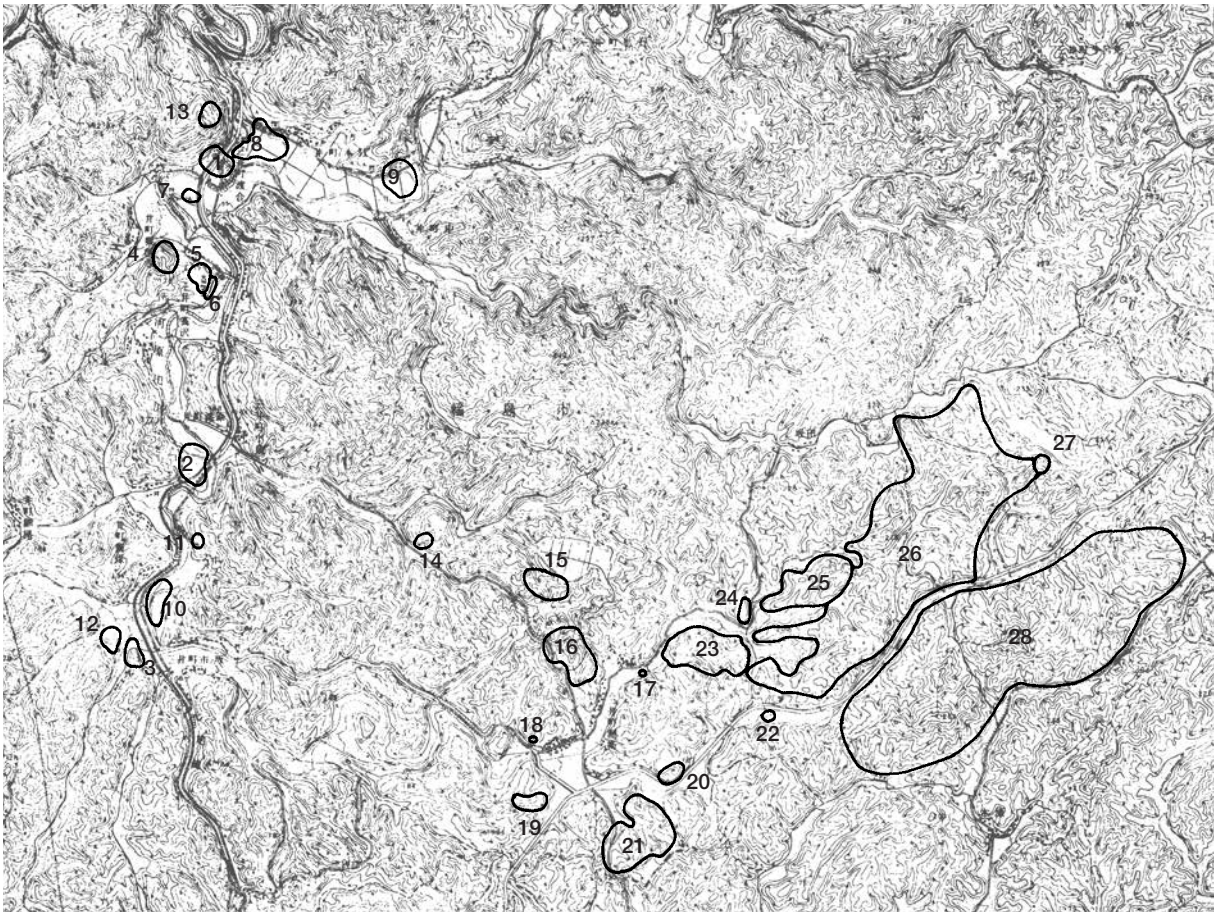
縄文時代の遺跡は、河原田川流域の舌状丘陵上に点在する。渡合遺跡（1）や、三井新保遺跡（2）、市ノ坂ヤマザキバナ遺跡（3）、興徳寺遺跡（4）が知られる。三井新保遺跡は、縄文時代前期後葉、中期後葉の遺構・遺物のほか、古代の須恵器窯跡や、平安時代の遺構・遺物が検出されている。海岸沿いに立地する縄文時代の集落遺跡が多い能登地方にあって、内陸部に立地する三井新保遺跡は貴重な調査事例となっている。

古墳時代の遺跡では、三井美登里ヶ丘遺跡（5）が知られている。昭和23（1948）年、三井中学校

の敷地造成工事の際に発見されたものである。四柳嘉孝氏により試掘調査が行われ、弥生時代終末期から古墳時代初頭の遺物が採集されており、集落が丘陵に営まれていたと考えられている。三井美登里ヶ丘遺跡の東方斜面には、興徳寺横穴群（6）７基が知られていて、第７号横穴については、昭和54（1979）年に石川県立埋蔵文化財センターによって調査が実施されている。遺物は検出されなかったが、横穴の形態等から、７世紀後半の年代が与えられている。

奈良時代以降中世の遺跡では、渡合遺跡、興徳寺B遺跡（7）、本江遺跡（8）、三井新保遺跡、三井小泉遺跡（10）、井ブタ遺跡（11）、市ノ坂テンジンウワノ遺跡（12）、本江姫ヶ城跡（13）などが知られる。三井小泉遺跡では、平安時代前半期の掘立柱建物10棟のほか、井戸や土坑などを検出した。本江姫ヶ城は、渡合遺跡の北方約200mの河原田川と仁行川との合流地点に位置する。昭和60（1985）年に石川考古学研究会により分布調査が行われており、堀切や曲輪と見られる平坦面などが確認されている。また、洲衛地区では、地名の「洲衛（すえ）」の名にあるように、須恵器の原料である粘土が近隣で産出されたため、古代においては須恵器の生産地であった。また、「海藻状水田」「樹枝状水田」と呼称される狭小な谷平野の見られる地域ではあるが、窯跡のほか、製鉄址の集中する地域であり、奥能登にあっては重要な位置を占めている。昭和40（1965）年、石川考古学研究会によって、同ツルノコ地内に所在する第１号窯址（現洲衛窯跡西支群（19）に含まれる）にトレンチ調査が実施されており、このときの出土遺物は平安時代中期の９世紀後半代に編年され、同時期における標識的資料となっている。なお、洲衛地区には、こうした須恵器の窯跡以外にも、時期の特定は難しいものの、タタラ製鉄跡や炭窯跡も多数分布する。

近世～近代では、能登空港関連遺跡群（28）が知られる。平成９（1997）年の石川県立埋蔵文化財センター、平成10（1998）年の（財）石川県埋蔵文化財センターによる調査で、多数の炭窯が確認され、構造等が明らかにされた。



第３図　周辺の遺跡（S=1/50,000）

番号	名称	所在地	種別	現状	立地	時代	備考	県遺跡番号
1	渡合遺跡	輪島市三井町渡合	散布地	畑・田	丘陵	縄文～中世	1991年県立埋文センター調査	04011
2	三井新保遺跡	輪島市三井町新保	散布地	畑	平地	縄文・奈良～中世	1982年県立埋文センター調査	04006
3	市ノ坂ヤマザキバナ遺跡	輪島市三井町市ノ坂	散布地	畑	丘陵	縄文		04003
4	興徳寺遺跡	輪島市三井町興徳寺	散布地	畑	丘陵	縄文	磨製石斧単独出土	04009
5	三井美登里丘遺跡	輪島市三井町興徳寺	散布地	校地	丘陵	縄文・古墳	1948年四柳嘉孝氏調査	04008
6	興徳寺横穴群	輪島市三井町興徳寺	横穴墓	山林	丘陵斜面	古墳	1～7号横穴。市指定史跡。1979年県教委調査（7号横穴）。	04007
7	興徳寺B遺跡	輪島市三井町興徳寺	散布地	畑・山林	平地	中世		04010
8	本江遺跡	輪島市三井町本江	散布地	畑・田	丘陵	古墳～中世		04013
9	本江宮ノ下遺跡	輪島市三井町本江	散布地	田	平地	平安～中世		04014
10	三井小泉遺跡	輪島市三井町小泉	散布地	宅地	丘陵	縄文、奈良・平安	1985年県立埋文センター、1991年市教委調査。	04004
11	井ブタ遺跡	輪島市三井町小泉	散布地	畑	丘陵	平安		04005
12	市ノ坂テンジンウワノ遺跡	輪島市三井町市ノ坂	散布地	畑	丘陵	平安		04002
13	本江姫ヶ城跡	輪島市三井町本江	城跡	山林	丘陵	中世	市指定史跡。付近で磨製石斧が単独出土。	04012
14	洲衛タタラA遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04015
15	洲衛炭窯跡Ｂ支群	輪島市三井町洲衛	炭窯跡	山林	丘陵	不詳	能登町俎倉遺跡例に類似するもの４基以上。	04016
16	洲衛タタラB遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04017
17	洲衛大舎羅遺跡	輪島市三井町洲衛	散布地	田	丘陵裾	平安		04018
18	洲衛中世墳墓	輪島市三井町洲衛	墳墓	墓地	丘陵裾	中世		04019
19	洲衛窯跡西支群	輪島市三井町洲衛	窯跡	山林	丘陵斜面	平安	旧洲衛1号窯跡（市指定史跡）を含む。	04020
20	洲衛窯跡中支群	輪島市三井町洲衛	窯跡	山林	丘陵斜面	不詳	旧洲衛2・3号窯跡を含む。	04021
21	洲衛タタラC遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04022
22	洲衛窯跡東支群	輪島市三井町洲衛	窯跡	田	丘陵裾	平安		04023
23	洲衛タタラD遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04024
24	洲衛タタラE遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳	3基以上。	04025
25	洲衛タタラF遺跡	輪島市三井町洲衛	製鉄跡	山林	丘陵	不詳		04026
26	洲衛炭窯跡A支群	輪島市三井町洲衛	炭窯跡	山林	丘陵	不詳	600基前後の存在が予想される。	04027
27	洲衛旧開拓地遺跡	輪島市三井町洲衛	散布地	山林	丘陵	縄文中期		04028
28	能登空港関連遺跡群	輪島市三井町洲衛、能登町大田原、穴水町木原	炭窯跡	山林	丘陵	近世～近代	1997年県立埋文センター、1998年（財）県埋文センター調査	

第１表　周辺の遺跡

第3章　遺構と遺物

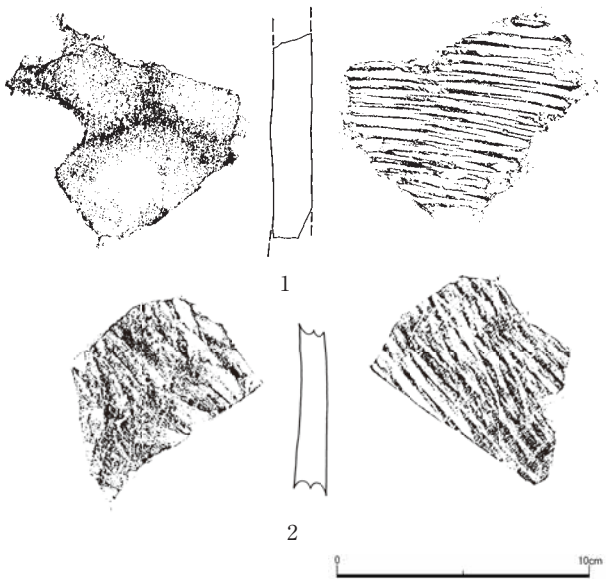
第1節　調査の概要

調査区の現況は旧のと鉄道七尾線の線路敷部分であった。調査区は面積350m^{2}のトレンチで、北から10mごとに1区～11区までグリッドを設定した。グリッドの軸方位は1～7区杭でN35°E、7～12区杭でN28°Eである。なお、8区と10～11区の農道或いは水道管埋設部分にかかった部分については調査を行っていない。調査区の南側が高く、北側に向かって傾斜しており、検出面レベルでは南端で標高約90.7m、北端で約89mを測る。4区から9区に鞍部が存在し、その両側に土坑や溝、小穴といった遺構が見られたが、その密度は薄く、11区に至ると遺構が見られなくなる。層序は基本的に線路敷による造成土の下に、主に灰褐色～褐灰色の粘質土が堆積しており、ベースは黄灰色～褐色の粘質土である。

第2節　遺構と遺物

遺構密度は非常に希薄で、2箇所の鞍部の間に、僅かに小穴や土坑、溝を確認したのみである。

また、出土遺物は僅少かつ小片の状態で、調査区から得られた遺物は、造成土に混入していた近現代の陶磁器片を含めても6点に過ぎない。なお、2の須恵器甕胴部片は、主要地方道七尾輪島線を挟んだ、今回調査区の東方に位置する畑からの表採品である。外面に平行タタキ、内面に同心円状の当て具痕が見られる。



第4図　遺物実測図（S=1/3）

1区SK01　調査区外に続いており、全形は明らかでない。検出面からの深さ約20cmを測る。

1区SK02　調査区外に続いており、全形は明らかでない。検出面からの深さ約20cmを測る。

1区SX01　調査区と接する道路側溝の保護のため、肩部の立ち上がりを確認した上で、検出面から約60cmの深さで掘削を止めている。調査区北端より検出し、範囲外に延びているため、全形は明らかでないが、溝または鞍部と考えられる。

2区SX02　調査区と接する道路側溝の保護のため、肩部の立ち上がりを確認した上で、検出面から約60cmの深さで掘削を止めている。幅7.6～8.8mを測り、溝と考えられる。南肩の底面付近で、自然石の流れ込みが見られた。出土遺物は9層から1の珠洲焼甕胴部片1点が出土したのみである。

3区SK03　長径1.06m、短径0.83m平面楕円形の土坑である。検出面からの深さ約30cmを測る。

3区SK04　長径0.73m、短径0.48mの平面楕円形プラン。木根痕と思われる凹みが見られた。検出面からの深さ約15cmを測る。

4～9区鞍部　南北の落ち際からそれぞれ約10m掘り下げたが、遺物の出土が見られなかったため、

中間は、試掘孔を掘って層位を確認することで対応した。造成土下の褐灰色土層以下が鞍部の堆積と思われる。範囲は約53mに及び、もっとも深い部分では、標高88.6mの深さを測る。南側斜面の８区で、浅い凹みや小穴が見られた。

10区近溝　東西方向に延びる溝で、幅1.0m程度、検出面からの深さ30cm程度を測る。掘り方の中～下位から番線と腐食した木屑が検出されており、近～現代に属するものと思われる。

第４章　ま　と　め

1991年に行われた石川県立埋蔵文化財センターによる調査で、本遺跡が縄文中期から中世の集落跡の可能性があると報告されている。今回の調査では、４～９区の鞍部を挟んだ両側に、小穴や土坑、溝を検出したが、遺構密度は全体的に薄い。調査区の北から南へと除々に遺構が少なくなり、11区になると遺構が見られなくなった。また、出土遺物も僅少であり、本遺跡の各年代でのあり方については、明確ではない。なお、本遺跡の北方約200mの丘陵上に位置する姫ヶ城について、石川考古学研究会が分布調査を実施しており、その報告において平田天秋氏は「南方下位には八幡神社が存し、（中略）本城跡に関連する生活遺構が存するものと思われる（後略）」と指摘されている。珠洲焼片が出土したSX02は、それに関連するものであろうか。

引用・参考文献

石川県教育委員会　1992　『石川県遺跡地図』

石川県立埋蔵文化財センター　1980　『三井興徳寺横穴』

石川県立埋蔵文化財センター　1983　『輪島市三井新保遺跡－主要地方道七尾・輪島線改良事業に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－』

石川県立埋蔵文化財センター　1986　『三井小泉遺跡』

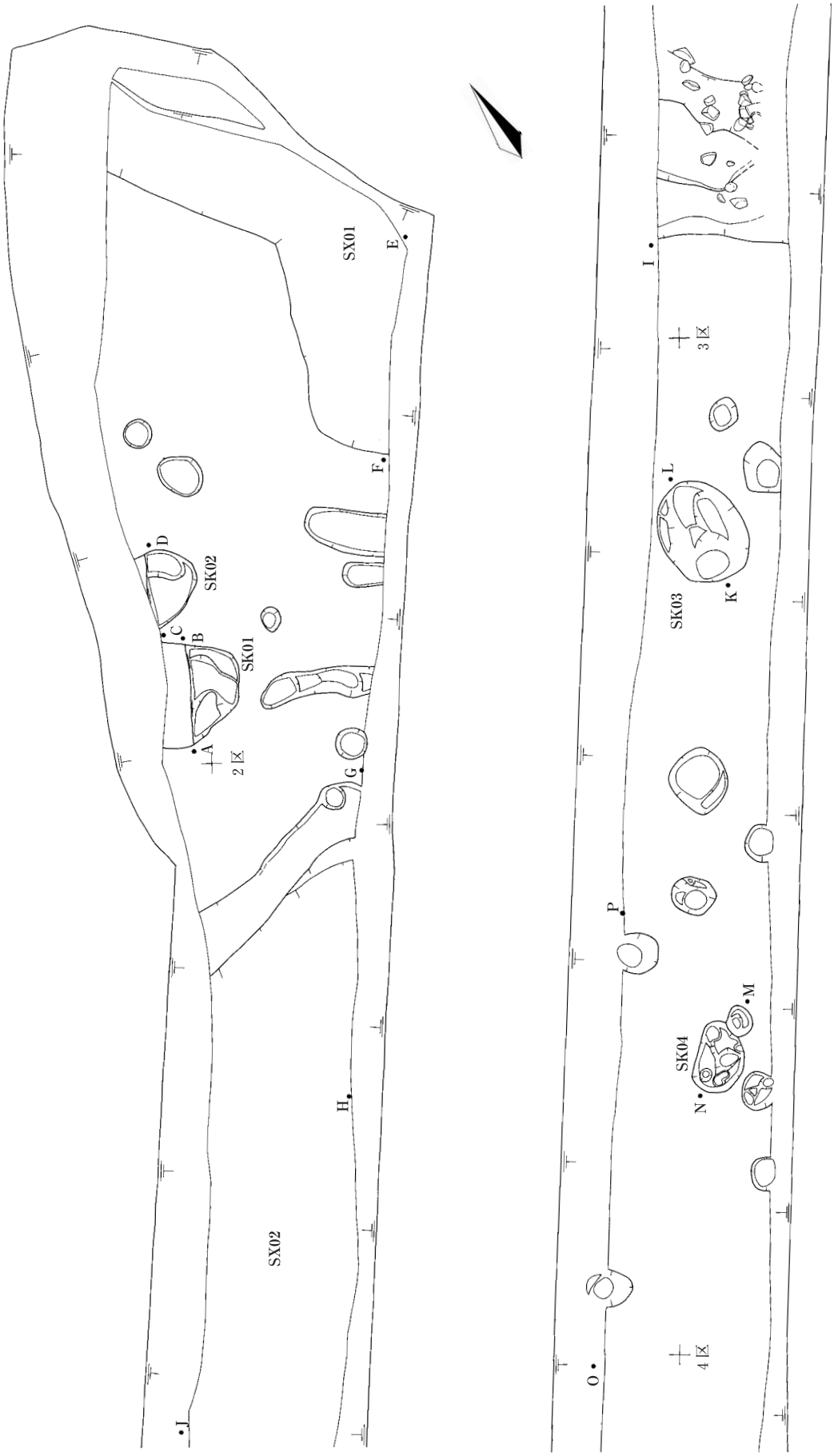
石川考古学研究会　1988　『石川県城館跡分布調査報告』

柿田祐司　1992　「輪島市三井町渡合遺跡」　『石川県立埋蔵文化財センター年報12』

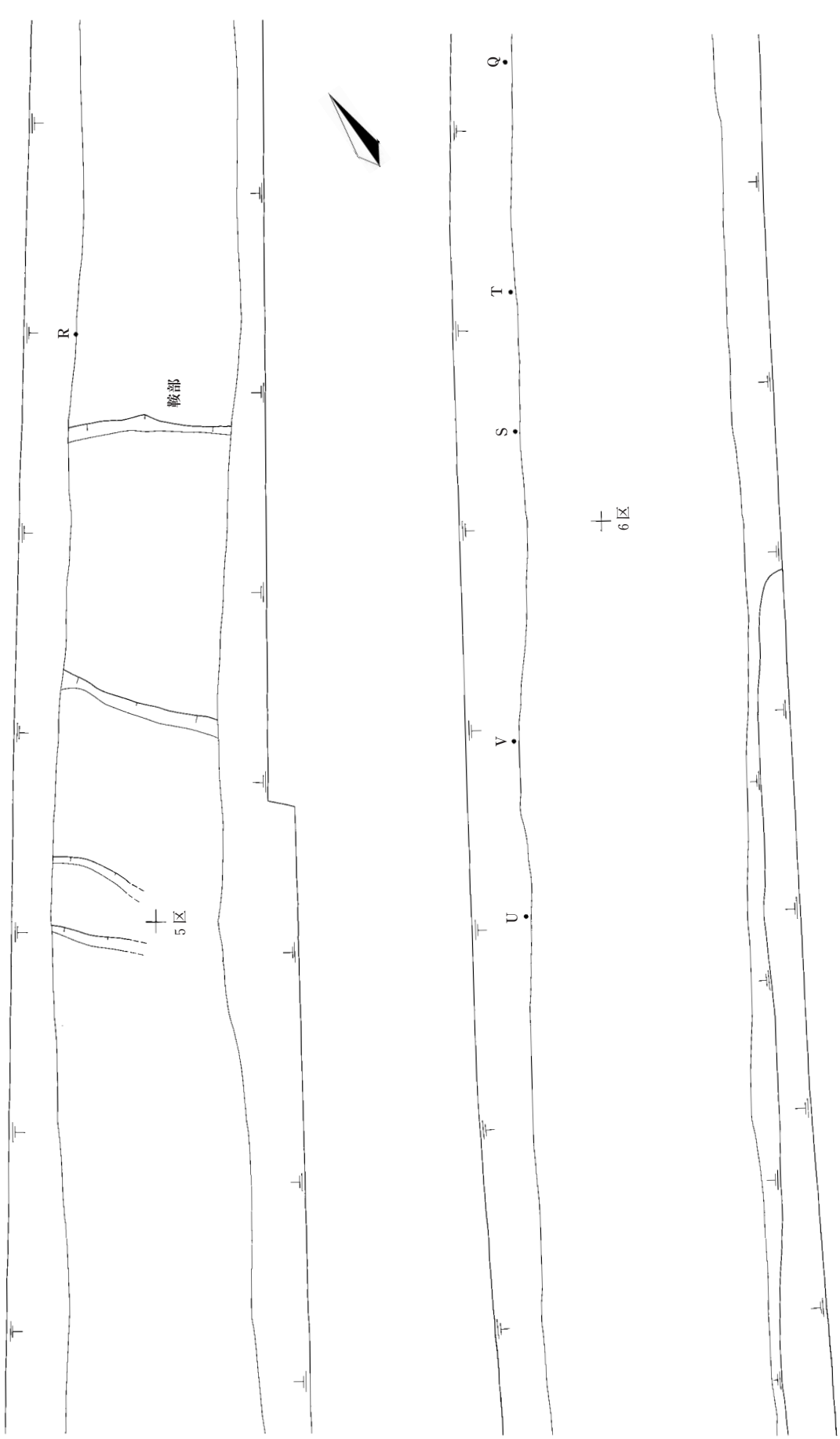
角川書店　1988　『日本地名大辞典17　石川県』

（財）石川県埋蔵文化財センター　2000　『能登空港関連遺跡群－能登空港建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』

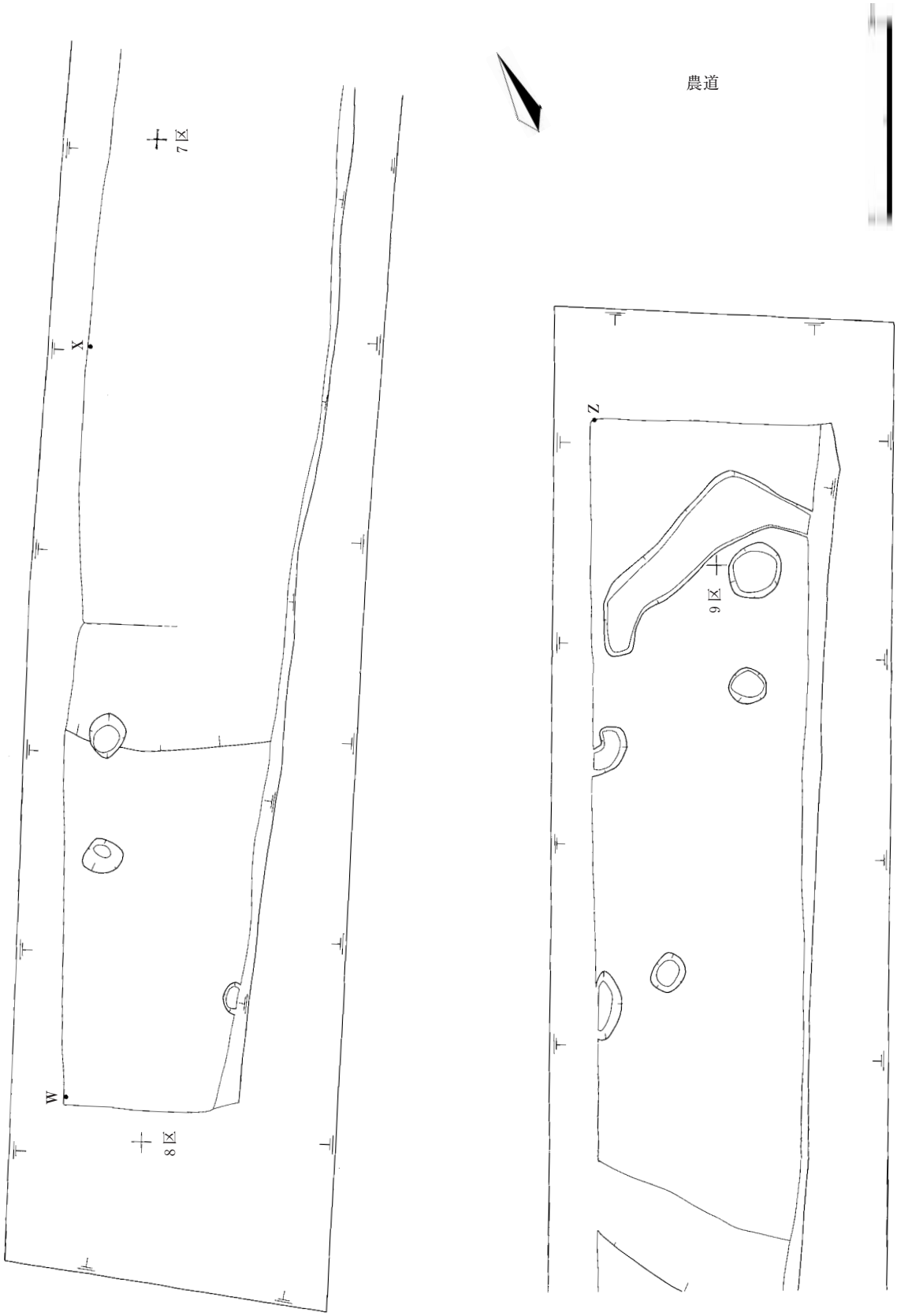
平凡社　1991　『日本歴史地名体系　第17巻　石川県の地名』



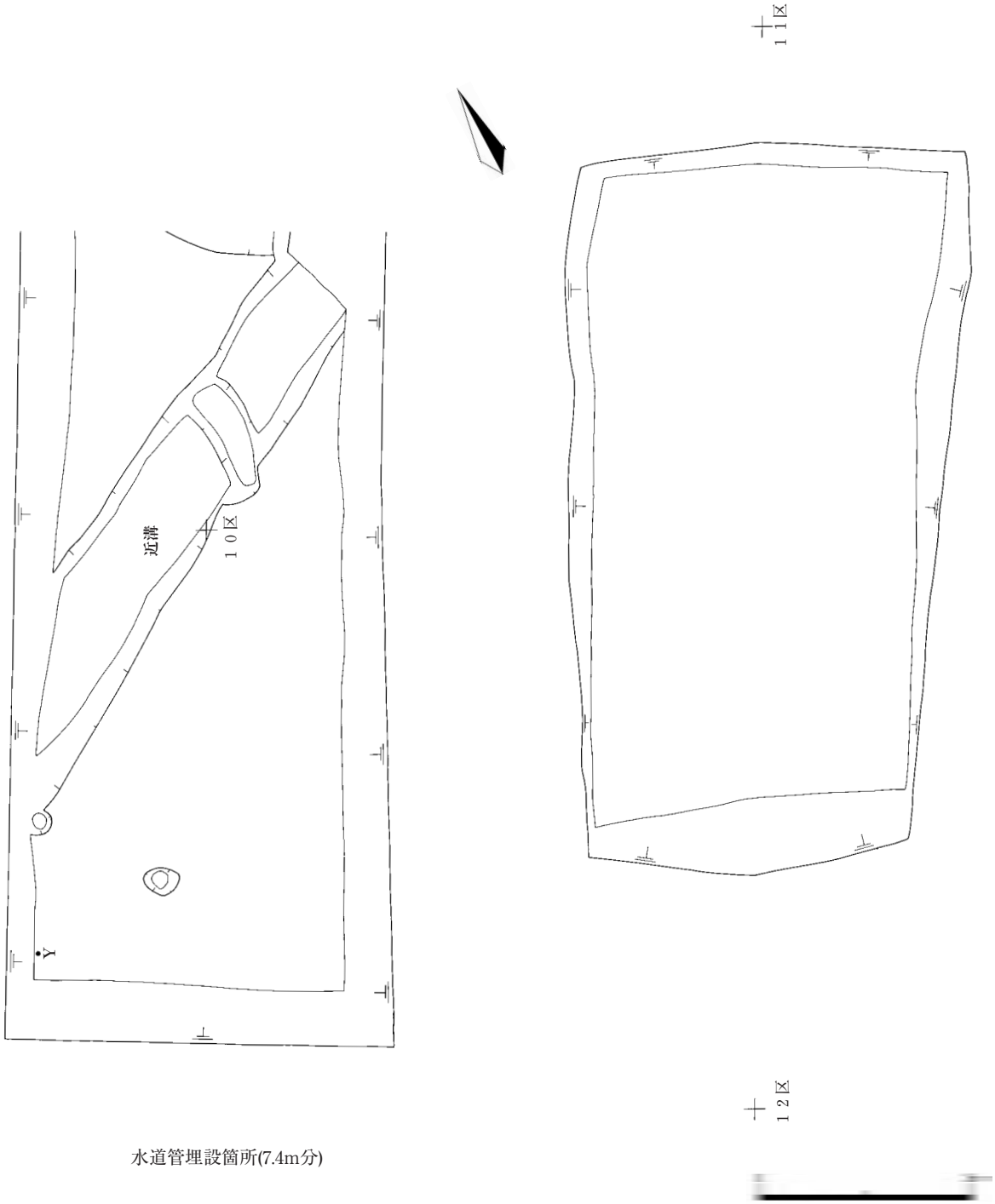
第５図　遺構平面図１（S=1/60）



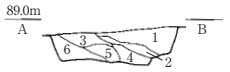
第 6 図　遺構平面図 2（S=1/60）



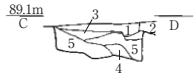
第７図　遺構平面図３（S=1/60）



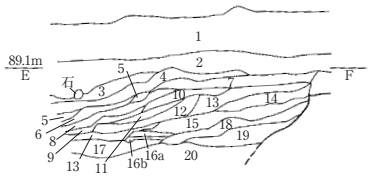
第８図　遺構平面図４（S=1/60）



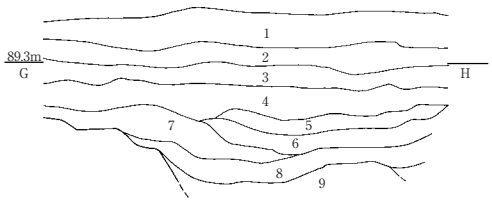
1区SK01土層
1　灰褐色粘質土（炭粒少混）
2　1層+黄褐色粘質土
3　褐灰色粘質土（炭粒少混）
4　暗褐灰色粘質土
5　褐灰色粘質土（褐色味が強い）
6　5層+黄褐色粘質土
地山　黄灰色粘質土（やや灰色味強い）



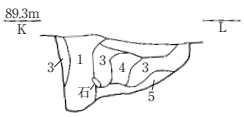
1区SK02土層
1　褐灰色土（褐色味が強い）
2　褐灰色土（灰色味が強い）
3　褐灰色粘質土
4　灰褐色粘質土
5　灰色土
6　暗褐灰色粘質土
地山　黄灰色粘質土（やや灰色味強い）



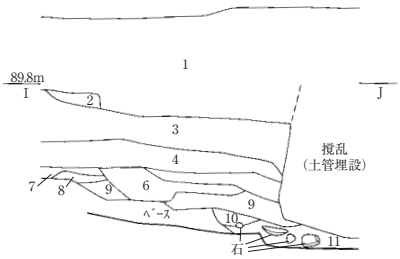
1区SX01土層
1　黒褐色土
2　暗灰褐色土
3　褐灰色粘質土（黄褐色粘質土ブロック混）
4　褐灰色粘質土（やや灰色味が強い。炭粒混）
5　4層+黄褐色粘質土ブロック多
6　4層+黄褐色粘質土ブロック少
7　褐灰色粘質土（やや灰色味が強い）
8　褐灰色粘質土（黄灰色粘質土小ブロック少混）
9　暗褐灰色粘質土+黄褐色粘質土
10　暗褐灰色粘質土
11　灰褐色粘質土（炭粒少混）
12　暗灰褐色粘質土（茶褐色粘質土少混）
13　灰褐色粘質土（褐色味が強い。炭粒少混）
14　灰褐色粘質土（黄褐色粘質土小ブロック・炭粒少混）
15　灰褐色粘質土（黄褐色粘質土ブロック多混）
16a　灰褐色粘質土（褐色味強い。炭粒少混）
16b　灰褐色粘質土（褐色味強い）
17　暗灰褐色粘質土（褐色味強い）
18　暗褐灰色粘質土（黄灰色粘質土小ブロック少混、炭粒混）
19　褐灰色粘質土（灰色味強い。黄灰色粘質土ブロック多混、炭粒混）
20　暗灰褐色粘質土（やや黒味がかる）



2区SX02北肩土層（東壁）
1　淡黄褐色砂…道路側溝埋土
2　黒褐色土
3　灰褐色土（やや暗めの色調）
4　灰褐色土（黄灰色土小ブロック混）
5　灰褐色粘質土（黄灰色土小ブロック混）
6　灰褐色粘質土（黄灰色土小ブロック混、炭粒少混）
7　灰褐色粘質土（褐色味強い。黄灰色粘質土ブロック少混）
8　灰褐色粘質土（やや暗めの色調。炭粒少混）
9　暗灰褐色粘質土
10　黒褐色粘質土
地山　黄灰色粘質土



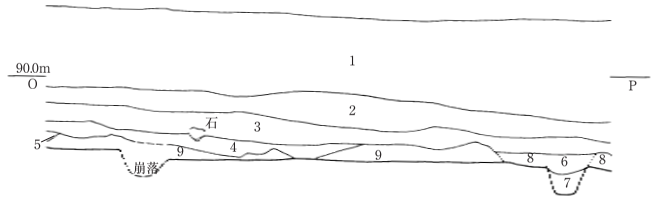
3区SK03土層
1　灰褐色粘質土
2　灰褐色粘質土（地山ブロック少混、やや灰色味強い）
3　明褐灰色粘質土（地山ブロック混）
4　明褐灰色粘質土（地山ブロック少混）
5　褐灰色粘質土+地山土
地山　褐色粘質土



2区SX02南肩土層（西壁）
1　灰褐色土（石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
2　淡褐色砂
3　暗褐灰色土（石混）
4　灰褐色土
5　暗褐灰色土
6　黒褐色土
7　暗褐灰色土
8　褐灰色土
9　灰褐色粘質土（暗褐灰色土少混）
10　灰褐色粘質土
11　濁灰褐色粘質土

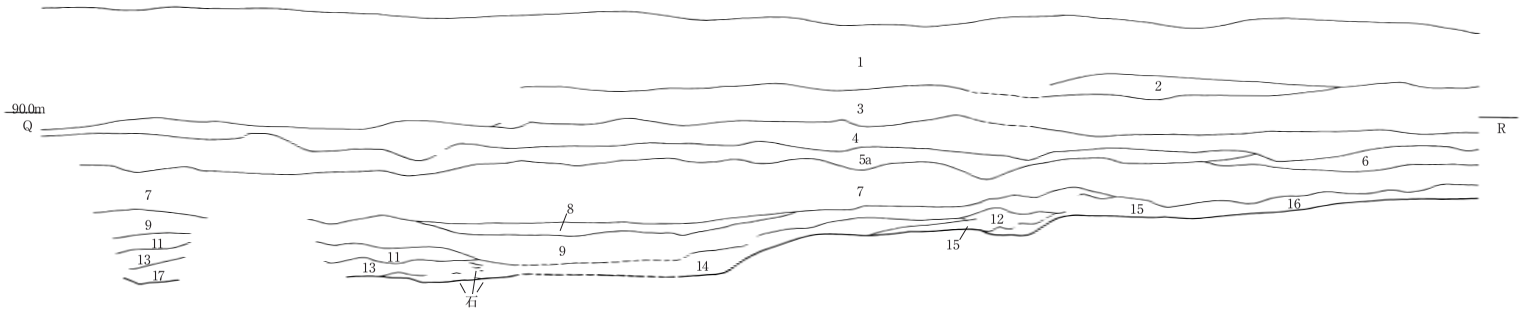
3区SK04土層
1　褐灰色粘質土
2　褐灰色粘質土（地山ブロック混）
3　褐灰色粘質土（地山ブロック多混）
地山　褐色粘質土

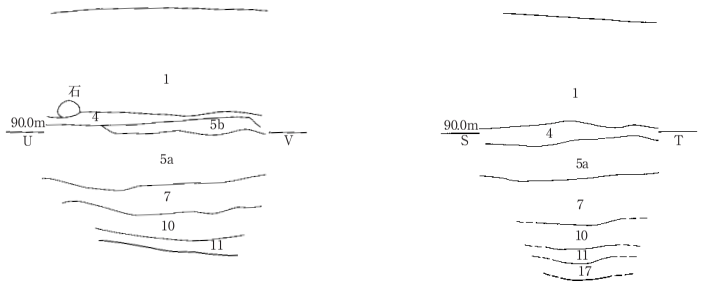
第９図　遺構断面図１（S=1/60）



3区西壁土層

1　灰褐色土（石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
2　灰褐色土（小石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
3　灰褐色土
4　暗灰褐色土
5　褐灰色土
6　暗灰褐色土（やや粘性あり）
7　暗灰褐色粘質土
8　暗褐灰色土
9　褐灰色土（地山ブロック混）

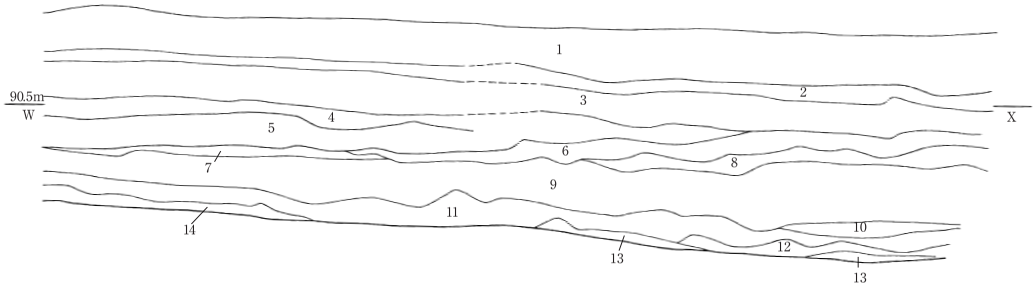




4～5区西壁土層

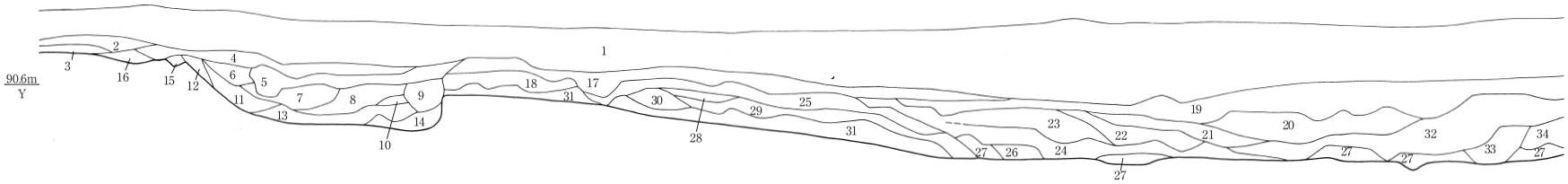
1　灰褐色土（石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
2　灰褐色土（やや褐色味が強い。石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
3　灰褐色土（石混）…造成土（線路路盤・盛土）
4　灰褐色土
5a　暗灰褐色土
5b　5aよりやや灰色味強い
6　暗褐灰色土
7　黒褐色土
8　暗褐灰色粘質土（粘性強い）
9　暗褐灰色粘質土（炭粒混）
10　暗灰色粘質土
11　暗褐灰色粘質土（褐色味強い）
12　11層+炭粒少混
13　暗褐色粘質土（黒味がかる）
14　暗褐色粘質土
15　黒褐色粘質土（褐色粘質土少混）
16　黒褐色粘質土（褐色粘質土混）
17　褐色粘質土（13層土少混、小石多混）
地山　褐色粘質土

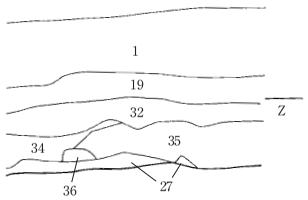
第10図　遺構断面図２（S=1/60）



7区西壁土層

1　灰褐色土（石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
2　灰褐色土（小石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
3　灰褐色土（褐色味強い。石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
4　褐灰色土
5　暗灰褐色土
6　暗灰褐色土（やや褐色味強い）
7　灰褐色土
8　暗褐灰色土
9　黒褐色土
10　暗灰褐色粘質土
11　暗灰褐色粘質土（10層よりやや明るめ。地山小ブロック少混）
12　暗褐灰色粘質土（褐色味強い）
13　暗褐色粘質土（やや黒味がかる）
14　褐色粘質土（暗褐色粘質土少混、小石多混）





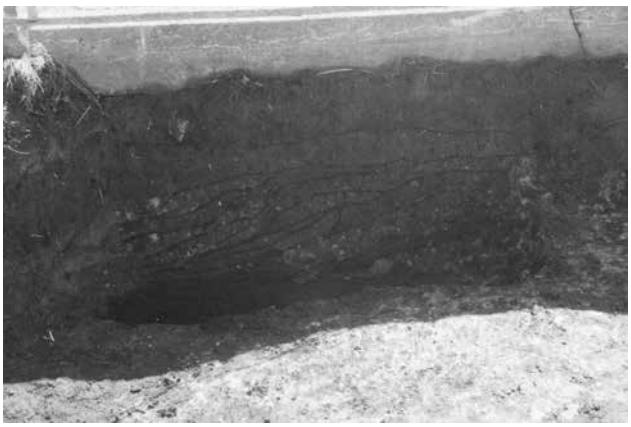
8～10区西壁土層

1　灰褐色土（石多混）…造成土（線路路盤・盛土）
2　濁青褐灰色土
3　2層+地山土
4　濁灰褐色土
5　灰褐色土（やや暗い色調）
6　灰褐色土（褐色粘質土少混）
7　灰褐色粘質土（灰色味強い）
8　灰褐色粘質土
9　褐灰色土
10　灰褐色粘質土（褐色味強い）
11　褐灰色粘質土（褐色粘質土小ブロック混）
12　褐灰色粘質土（褐色粘質土ブロック少混）
13　褐灰色粘質土（褐色粘質土小ブロック多混）
14　灰褐色粘質土（褐色粘質土少混）
15　濁灰褐色粘質土（地山ブロック少混）
16　濁灰褐色粘質土
17　褐灰色土（灰色味強い）
18　褐灰色粘質土（やや暗い色調。褐色粘質土少混）
19　褐灰色土
20　黒色土
21　黒灰色土
22　暗灰色土（やや粘性あり）
23　暗褐灰色粘質土
24　暗褐灰色粘質土（やや灰色味強い）
25　褐灰色粘質土（褐色粘質土少混）
26　黒灰色粘質土
27　褐色粘質土（暗褐色粘質土少混）
28　褐灰色粘質土（褐色粘質土混）
29　28層＋地山ブロック少混
30　褐灰色粘質土+褐色粘質土
31　29層より地山ブロック多混
32　暗灰褐色土
33　黒灰色粘質土（やや明るめの色調）
34　黒灰色粘質土
35　黒褐色土
36　黒灰色粘質土（地山ブロック混）
37　濁暗灰色粘質土
地山　褐色粘質土

第11図　遺構断面図3（S=1/60）

調査着手前（南から）

1 ～ 2 区完掘状況（北東から）



1 区SX01南肩土層

1 区SK01土層

1 区SK02土層

2 ～ 3 区完掘状況（北東から）

2 区SX02北肩土層

2 区SX02南肩土層

図版 2

3 区SK03土層

3 区SK04土層

3 区西壁土層

4 ～ 6 区完掘状況（北東から）

7 区完掘状況（北東から）

7 区西壁土層

8 ～10区西壁土層

11区完掘状況（南西から）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	わじまし　どあいいせき
書　　名	輪島市　渡合遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	荒木麻理子
編 集 機 関	財団法人　石川県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地１　TEL 076－229－4477
発行年月日	西暦2007年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 （新）	東経 （新）	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
渡合（どあい）遺跡	石川県輪島市（いしかわけんわじまし）三井町渡合（みいまちどあい）地内	17204	04011	37度 19分 21秒	136度 53分 59秒	20051013 ～ 20051116	350㎡	いしかわ広域交流幹線軸道路整備事業（主）七尾輪島線

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
渡合遺跡	集落	縄文～中世	溝、土坑、小穴	土師器、須恵器、珠洲焼、陶磁器	

要　　約	遺構密度は非常に希薄であったが、小穴や土坑、溝を確認した。また、出土遺物も僅少であった。

輪島市　渡合遺跡

発行日　平成19（2007）年３月31日

発行者　石川県教育委員会
〒920－8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
電話　076－225－1842（文化財課）

財団法人　石川県埋蔵文化財センター
〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地１
電話　076－229－4477
E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印　刷　株式会社 橋本確文堂